



幸せの手紙を贈ろう

読者ページにまたまた嬉しいお便りが届きました。

いつもありがとうございます。

今日は、はっぴいれたあを本当に嬉しそうに見せてくれました。

ちょっと照れていました。

友達から褒めてもらうのが嬉しかったのでしょうか。

良いところを見つけて、それを表現するというのは意外と難しく、場合によっては勇気がいることだったりしますよね。

まだまだ入学したばかりですが、お互いのいいところに目を向けられる友だちができるのは親として本当に心強いと思いました。

道徳の時間やプロジェクトの時間を活用し、仲間づくりの一環としてハッピーレターの実践を行いました。

やり方もとってもシンプルです。

○ 画用紙に、友だちの良いところを書いて届ける。

○ 誰かからハッピーレターをもらったら、必ず返事を書く。

説明している途中から、子どもたちはすでにウキウキしていました。

気恥ずかしさも相まって中々書けない子もいるかなあとも思いましたが、そんなことは全くありません。

二枚三枚と、どの子もたくさんの紙を手に取り、時間一杯幸せの手紙を書き続けました。

そして手紙が届くたび、心から嬉しそうな表情でそれを読んでいました。

圧巻は、子どもたちの手紙の消費量です。

足りなくてはいけないと思い、かなり多目に用意した数百枚の画用紙が、またたく間になくなってしまいました。

その姿を見ながら、ふとある曲が頭に浮かびました。

「なんのために生まれて なにをして生きるのか
こたえられないなんて そんなのはいやだ！」

有名なアンパンマンの主題歌の歌詞です。

小さいころから何度も耳にしてきたこの歌詞には、作者のやなせたかしさんの生涯がつまっていると言われています。

「何のために生まれて、何をして生きるのか」

文章として改めて読んでみると、小さい子たちに向けるメッセージとしては中々重たい印象を受けます。

でも、こうした「目的意識」は年齢に関係なく重要であることを、教師として勤め続ける中で年々感じるようになってきました。

どこを目指して進んでいるかが分からなければ、道に迷った時に右往左往します。

反対に、目的地が明確になっていれば、少々の困難にもめげることはありません。

「何のために生きているのか」という根源的な問いは、まさにそのゴール地点こそが大切であることを私たちに教えてくれている気がします。

歌詞には、次の言葉もありました。

なにがきみのしあわせ なにをしてよろこぶ

人は、幸せになるために生まれてくると言います。

やなせさんだけでなく、世界中のあらゆる哲学者や偉人たちが口をそろえて言っています。

「人は幸せになるために生まれてくる」と。

でも、どうすれば幸せになるのかは意外と明確に語られることが少ないように思います。

「幸せはひとそれぞれだから」といえばそれまでなんですが、目的地と同じくらい、どうやればそこに辿り着くかという「道のり」も大切です。

どのように進めば、「幸せ」というゴールにたどりつくか。



もういちど、やなせさんの言葉をかりてみます。

人間が一番うれしいことはなんだろう。

長い間、ボクは考えてきた。

そして人間が一番うれしいのは、人間を喜ばせることだということがわかりました。

アンパンマンの仕事は、ずーっと変わりません。

「おなかのすいたひと、こまったひとをたすける」

これです。

人の最大の喜びは、貰うでも出来るでもなく“与える喜び”だといいます。

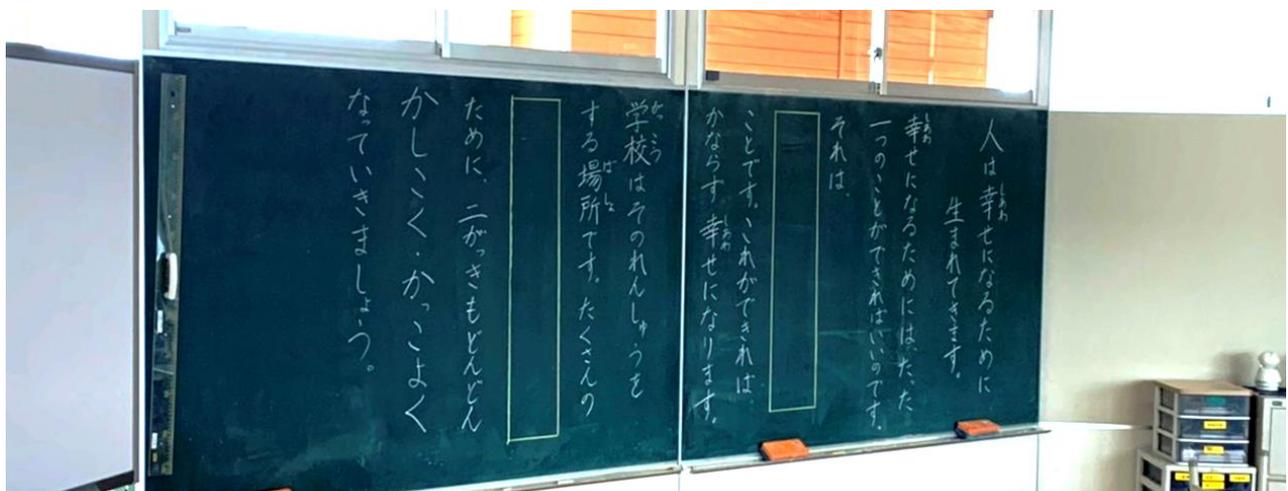
学校で勉強する意味も、この部分に大きくかかわっていると言えるでしょう。

沢山の言葉を覚えたら、その言葉を贈って人を喜ばせることができます。計算や運動ができるようになれば、その力を使って誰かの役に立てます。歌を歌うことも絵を描くこともそうです。

自分の人生で出会うたくさんの人を喜ばせ、幸せになる為に勉強はあるのだと思います。

私は昨年、札幌で2年生を担当していました。

その2学期の始業式に、黒板には次のメッセージを書いておきました。



そして、黒板の四角囲みの部分を、子どもたちに予想させました。
次々と、意見が出てきました。

- さわやかなあいさつをする
- 陰徳を積む
- 人を助ける
- 物を大切に使う
- 地獄言葉を使わない
- ゴミを拾う
- たくさん笑う
- 学校に来る
- ハッピーレターを書く
- どんどんチャレンジする

出てきた意見はすべて認めて褒めました。

全て意見が出尽くしたところで、答えの言葉を紹介し、先ほどのやなせさんのメッセージを紹介しました。

子どもたちは、慣れ親しんだアンパンマンの歌にそんな思いが込められていたのかと驚いた様子でした。

そして、2学期もたくさんの人を喜ばせられるように、たくさんかしく・かっこよくなっていこうねと話したものです。

何のために生きているかが分かり、どこに向かって勉強をしているのかが明確になると、日々の過ごし方や心の持ち方が大きく変わってきます。

ハッピーレターは、なかまづくりの一環としても行ったわけですが、もうひとつ大きな目標としては、「自分の言葉で相手を喜ばせる」原体験を積んでいてもらいたいという願いがあります。

今、ひらがなをおよそ半分くらい習い終えたところで、少しずつ「書く」ことへの意欲が高まってきているところです。

その貴重な芽が出てきた瞬間に、言葉を贈って人を喜ばせることがどれほど大きな幸福感を生むのかを感じて欲しかったのです。

事実、子どもたちは活動の中で、とても豊かな表情をうかべていました。

貰った時も嬉しそうですが、贈った時も嬉しそうなのです。

そして、分からない字があると、熱心に質問にくる姿も光りました。

「先生、『しょ』ってどうやって書くの？」

「先生、『じゅ』の書き方を教えてください。」

相手を喜ばせたいからこそ、その字を書けるようになりたいという姿にも、学習意欲の一つの源泉を見た思いがしました。

そしていつか、SOLANの一年生にも、アンパンマンの歌詞について考える時間を取りたいなあと思っています。

人の喜びを想い、行動し続ける人生は、きっと幸せや笑顔にあふれたものになるだろうなあとやなせさんの言葉からも改めて思うのでした。

(文責：渡辺道治)

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#)